

カンパニー・ルーブリエ Cie L'Oublié(e)

2012年、振付・構成・演出を務めるラファエル・ボワテルを中心に設立。サーカスに、演劇、ダンス、映画などの様々な分野を融合させた新しい身体的・視覚的言語の開発に力を入れている。特にエアリアル(空中パフォーマンス)については、伝統的なサーカスでは見られない画期的な新しい装置を開発。唯一無二のスタイルが注目を集め、世界中で人気を博している。現在は『フィアース5』の前身でもあり伝統的なサーカスをオマージュした人気作『5es HURLANTS』('15)、2019年に初来日公演となった『When Angels Fall/地上の天使たち』('18)のほか、『UN CONTRE UN』('20)『OMBRES PORTÉES』('21)など、複数の作品で世界中をツアー。ポルドー国立歌劇場と共同制作されたバルクール作品『HORIZON』('19)は、今年9月に開催されたパリ2024夏季オリンピックに向けた文化イベントの中でも上演され注目を浴びた。

構成・演出
Composition / Direction

ラファエル・ボワテル
Raphaëlle Boitel

1984年生まれ。6歳より演技を学び、パフォーマンスを始める。8歳にてアニー・フラテリーニに見初められ、92年に名門、国立サーカス学校アカデミー・フラテリーニに入学。1998年から2010年まで、フランス現代サーカスの旗手ジェームス・ティエレ(姉は『ミルミュルミュール』のオーレリア・ティエレ)と共に活動し、『La Symphonie du Hanneton』『La Veillée des Abysses』に出演。13年のツアーの間、平行して演劇や映画、テレビなどでも活躍する。2012年、オーレリアン・ポリエ(Cie111)『Géometrie de caoutchouc』に出演。その後、カンパニー・ルーブリエを設立する。自身の作品の他、ミラノ・スカラ座のオペラ『マクベス』や、パリ・シャトレ座でオペラ『美しきエレヌ』、オペラ=コミック座でバロックオペラ『アルシオーヌ』の振付を担当。2020年には、フランス国立サーカスアートセンター(CNAC)の卒業制作の演出に抜擢された。幼い頃から日本文化への憧れが強く、本作ではことわざ以外にも武道の動きを振付として取り入れている。

照明・セットデザイン
Lighting / Set Design

トリストアン・ボドワン
Tristan Baudoin

ビジュアルアートに惹かれ、17歳にしてショーの技術者としてのキャリアをスタート。照明と舞台機構を専門にライブ、テレビ、イベントなどで経験を重ねた後、1998年より活動の中心を演劇や音楽、ダンスへと移行する。2004年にオーレリアン・ポリエと出会い、Cie111に参加。10年間ステージマネージャーを務めながら、セットデザイン、機構、人間飛行、ロボット工学などの知識を磨き、『Sans Objet』では作品の主役である産業用ロボットの操作を行っていた。2011年にラファエルと出会い、以降、カンパニー・ルーブリエの全ての作品のセットデザイン、照明、技術監督を務める。カンパニー・ルーブリエの作品には度々出演もしており、本作『フィアース5』のオリジナル版では、今回、安本亜佐美が演じている技術監督の役で舞台に登場している。

構成・演出
ラファエル・ボワテル

照明・セットデザイン
トリストアン・ボドワン

音楽
リハーサルアシスタント
アルチュール・ビゾン
リルー・エラン

リハーサルアシスタント・アンダースタディ
吉田亜希

技術監督
福田純平

舞台監督
木村光晴

照明コーディネーター
野木実侑

音響コーディネーター
小笠原康雅

音響オペレーター
五木田真和

演出部
前田 淳 | 丸山賢一

衣裳管理
中野かおる

大道具制作
田中善久
株式会社村上舞台機構
永島金物店

通訳
加藤リツ子 | 陳逸君

ボディケア
押本理映 (PT/ファンクフィジオ東京)
小宮良太 (PT/R-accion.)

法務アドバイザー
福井健策 (骨董通り法律事務所)

宣伝デザイン
TAKAIYAMA inc.

宣伝写真
松原博子

記録写真
大洞博靖

映像制作
倉沢英治

広報
甲斐典文 | 下島智子 | 佐藤 希
杉田千尋 | 宮村恵子

営業
竹村竜

票券
松尾幸亮

制作補
三五さやか

制作
酒井淳美 | 三上さおり | 永田景子

【世田谷パブリックシアター】

芸術監督：白井 晃

劇場部長：小林千洋
技術部長：福田純平

世田谷文化生活情報センター館長：高萩 宏
公益財団法人せたがや文化財団理事長：青柳正規

協 賛 = SIS company 東邦ホールディングス

TOYOTA Bloomberg

協 力 = 東急電鉄株式会社

世田谷パブリックシアター
SETAGAYA PUBLIC THEATRE

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1
03-5432-1526 <https://setagaya-pt.jp/>

主 催 = 公益財団法人せたがや文化財団

企画制作 = 世田谷パブリックシアター

後 援 = 世田谷区、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ

助 成 = アンスティチュ・フランセ パリ本部

協 力 = 一般社団法人瀬戸内サーカスファクトリー、関西エアリアル、Circus Laboratory CouCou

初演・共同制作 = 国際交流基金、公益財団法人せたがや文化財団



2023/10/27 (FRI) - 29 (SUN)

会場：世田谷パブリックシアター

世田谷アートタウン 2023 関連企画
フランス×日本 現代サーカス交流プロジェクト

『フィアース5』

KEIRIN

この公演は、KEIRINの補助を受けています。 <https://jka-cycle.jp>

世田谷パブリックシアター
SETAGAYA PUBLIC THEATRE

フィアース5にご来場の皆様へ



世田谷パブリックシアター
芸術監督
Artistic Directors

白井 晃
Akira Shirai



『フィアース5』構成・演出
Composition / Direction
ラファエル・ボワテル
Raphaëlle Boitel

本日は、世田谷パブリックシアター主催のフランス×日本 現代サーカス交流プロジェクト『フィアース5』にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

この作品は、2年前にフランスの現代サーカス界を牽引する演出家ラファエル・ボワテルと日本人アーティストとの共作により生まれたフィジカルシアターです。好評を得て再クリエーションとなり、今回は、台湾からのアーティストも招聘し、より力強い作品になりました。

本作のテーマは「七転び八起き」。ラファエルさんは、日本のこのことわざに感銘を受け、粘り強く生きることを主題に据えて、この作品を創作されました。そこには、サーカスの要素とダンスの要素、さらに演劇的な要素が全て含まれた表現になっています。出演者の姿を通して、私たちは苦難から諦めずに立ち上がることの素晴らしさを教えられる。それは、まさに困難な状態が続く私たちの世界でも、諦めず前向きに生きていこうという、力強いメッセージでもあるのです。

サーカスを超えた、ダンスを超えた、演劇を超えたこの素晴らしい作品を、最後までごゆっくりご堪能いただければと思います。

世田谷パブリックシアターで再び『フィアース5』を上演できることをとても嬉しく思っています。

2015年、専門分野が異なる多国籍のアーティストと共に、この作品のためにデザインしたスパイダーと呼ばれる装置を使った非常にエモーショナルで壮観なスペクタクル『5ES HURLANTS』を発表しました。

その時には、2度にわたって日本でこの作品を再創作し、皆様にお届けできる日がくるとは夢にも思っていませんでした。私たちは今回、日本そして台湾を拠点とする7人のアーティストにこの作品を託します。このプロジェクトはとても重要で、公演を行うだけでなく、まさに交流と継承と出会いのためのプロジェクトなのです。

この作品では“粘り強さ”について描いていますが、今日の世界では“粘り強さ”が非常に重要であると言えます。私がアーティストとして日々の生活を送る中でヒントとしている大好きな日本のことわざ「七転び八起き」から自由にインスピレーションを得ました。ぜひ、皆様にお楽しみいただけましたら幸いです。

【現代サーカス交流プロジェクトとは？】

サーカスの多彩なテクニックと演劇やダンス、音楽など様々な要素が融合され、枠組みにとらわれない自由な発想で時代と共に変化を続ける「現代サーカス」を通して、国際交流と舞台芸術の発展を目指すプロジェクト。今回は2021年に続き、今やフランスを代表する現代サーカスカンパニーの一つとなったルーブリエを率いる演出家・振付家のラファエル・ボワテルと技術監督のトリスタン・ボドワンを迎え、日本拠点のサーカスアーティストと共に、ルーブリエの代表作『5es HURLANTS』をベースとした『フィアース5』をリクリエーション。さらに、今回は台湾からも新メンバーが加わり、国際交流の輪を広げている。

出演者 | Cast



浅沼 圭 Kei Asanuma

ダンス・アクロバット | Dance Acrobat
柔らかく繊細な身体性を持ちながら強靱でジャンルレスな表現を兼ね備えたダンサー。これまで新国立劇場、KAAT 神奈川芸術劇場、Bunkamura、東京芸術劇場などの劇場で森山開次、串田和美、広崎うらんらのダンス・演劇・サーカス、様々なジャンルの作品、映画・CM・MVなどにも出演。また、振付・ステージングなどの裏方でも活躍。9歳より新体操競技をはじめ、ジュニア団体日本代表、北京オリンピック個人強化選手にも選出された経歴を持つ。2019年に世田谷パブリックシアター、瀬戸内サーカスファクトリー、(公財)福岡市文化芸術振興財団が合同で行った、フィンランド×日本 現代サーカス交流プロジェクト『Air / エアー』に、今回のリハーサル・アシスタントの吉田と共に出演している。https://keiasanuma.jp/



長谷川 愛実 Aimi Hasegawa

エアリアル・フープ | Aerial Hoop
幼少の頃より新体操、クラシックバレエに励む。新体操引退後は本格的にクラシックバレエを学び、フランスのリヨン国立高等音楽・舞踊学校 (CNSM) での短期研修を修了。帰国後は空中パフォーマンス専門スタジオAADPにてエアリアルを学び、第5期養成スクールを卒業。現在はサーカスアーティストとして、舞台公演やコンサート、テーマパーク、大道芸フェスティバルなど幅広く活躍。エアリアルを始め、ストレッチや新体操等の指導・振付にも尽力している。ジャグラー目黒陽介とのユニット「うつしおみ」や瀬戸内サーカスファクトリーのアソシエイト・アーティストとしても活動。2021年11月、フランス・ポルドー国立歌劇場にて、カンパニー・ルーブリエのメンバーと共に『フィアース5』のオリジナル版『5es HURLANTS』に出演を果たした。



アンブローズ・フー Ambrose Hu

エアリアル・ストラップ | Aerial Straps
台湾随一のエアリアルアーティスト。高校から大学院まで武術を専門に学ぶ。大学時代に出会ったサーカスに「東洋」と「西洋」の融合という新たな可能性を見出し、独自のスタイルと美学を確立する。現在はエアリアルの可能性を探索しながら実験的な作品を自ら創作するなど、世界各地で精力的に活動中。しなやかに鍛え上げられた肉体が生み出す超人的なテクニックと中性的で情緒あふれる表現で人気を博している。2021年に世田谷パブリックシアターで映像上映を行った、台湾の現代サーカスカンパニー、フォルモサ・サーカス・アート (FOCA) の『悟空～冒険の幕開け～』にも出演。夢は、自分の技術を持って世界中を旅し、サーカスで経験した洞察力と人生への情熱を多くの人と分かち合うこと。http://www.ambrose-hu.com/



目黒 陽介 Yosuke Meguro

ジャグリング | Juggling
ジャグラー、演出家。14歳でジャグリングを始め、17歳より大道芸やフェスティバル、舞台やライブハウス等に出演。2008年より自身が中心となりジャグリング&音楽集団「ながめくらしつ」を結成、ほぼ全公演の演出・構成を務める。2013年よりエアリアルアーティスト・長谷川愛実とのユニット「うつしおみ」としても活動。外部出演作品に、串田和美演出『十二夜』『空中キャバレー』など。国内では稀有な現代サーカス演出家として、(社)瀬戸内サーカスファクトリー『100年サーカス』『naimono』、世田谷パブリックシアター『悟空～冒険の幕開け～』関連パフォーマンス等の演出も手がける。http://nagamekurasitsu.com/



吉川 健斗 Kento Yoshikawa

タイトロープ | Tightrope
17歳の時に独学でジャグリングを始める。動画で見た大道芸人の演技に感銘を受け、アーティストとして生きる道を目指す。高校卒業後、群馬県の沢入国際サーカス学校に入学。4年間、アクロバットや倒立を学び、ジャグリング技術の向上に励む。クラシックスタイルのジャグリングを得意とし、2018年に出場したジャグリング日本大会で準優勝する。ジャグリング、バランス、一輪車。サーカススキルに少しのユーモアを加えたソロパフォーマンスで、日本各地の大道芸フェスティバルに出演している。瀬戸内サーカスファクトリー アソシエイト・アーティスト。本作の初演では、それまで経験のなかったタイトロープ(綱渡り)を5か月で習得し、周囲を驚かせた。



山本 浩伸 Hironobu Yamamoto

ポストロックバンド“yodaka”のドラマー、チンドン屋を経て、2011年よりクラウンパフォーマンスチーム プレジャーBに所属し、クラウン「エルピン」として活動。すっとんきょうなキャラクターでお茶を濁している。NY Goofs Clown School修了、パントマイムを山本光洋氏に師事。特技はフライパンと目玉焼きのジャグリング、打楽器なんでも。クラウンの舞台ではサーカスドラマーとしての役割も担う。主な出演は、「CLOWN CLOWN CLOWN」「Le Cirque b」「コメディ・クラウン・サーカス」「明治村 サーカス団」「KOYO MIME SESSION」「金の文化祭」「全日本チンドンコンクール」「チンドン博覧会」「St.Louis Japan Festival」など。



安本 亜佐美 Asami Yasumoto

京都市立芸術大学大学院卒業後、英国サーカス学校Circomedia学位コースにてフィジカルシアターパフォーマンスを学ぶ。帰国後は現代サーカスを広めるため、京都を拠点に活動。日本初のパーティカルダンスが習えるスタジオ『関西エアリアル』、及び現代サーカス団体『Co.SCOoPP』代表を務める。http://asamiwixsite.com/mysite

リハーサルアシスタント・アンダースタディ
Assistant / Understudy



吉田 亜希 Aki Yoshida

幼少期から体操競技をはじめ、大学卒業後アクロバット&フライングのショーに出演。活動中にダンスに興味をもち、バレエ、コンテンポラリー、ストリート、演劇等の身体表現を学ぶ。

同時に、空中パフォーマンスとの出会いからアートサーカスの世界に魅了され、米英国にてエアリアル修行を行う。現在はエアリアル・ティシューを中心に、サーカスの枠にとらわれない独自のスタイルで自由な表現を模索中。近年ではオリジナル器具を用いたパフォーマンスを国内外で発表。トリックだけでなく空中での表現や空間演出に定評がある。瀬戸内サーカスファクトリーアソシエイト・アーティスト。https://aki-yoshida.jimdofree.com/